

令和3年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	基盤教育群
学 群 長 名	平岡 善浩

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	アフターコロナの状況下、教室の定員数変更など、対面講義前提での講義環境が変化したことによる、講義方法の対応が必要となった。
	理 由	科目やクラスによって想定していた履修者数からの増減がみられ、それに対応した教室の再配置、教室設備のばらつきが生じ、同じ科目でもクラスによって柔軟な講義運営が必要となった。また、3階4階に新しく整備された教室を運用し始めたことによって、必要な設備を検討しなければならない。
②	課 題	講堂での講義において、ステージ設備や客席の構造上、講義スタイル、試験方法の制約が生じた。
	理 由	板書が出来ない、筆記試験が出来ない、学生とのオーラルコミュニケーションや、ペーパー配布・回収が難しいなど、従来の講義手法から変更を余儀なくされ、オンラインツールとの併用により担当教員が対応されている。
③	課 題	対面講義は開始されたが、ディスカッションやグループワーク、学生の発話、接触を伴う講義の実施の判断が難しくなっている。
	理 由	教室の制約（机の配置や定員減など）、会話・接触・道具の共有など感染の恐れのある行動の制限、などがあり、オンラインツールを併用するなど工夫されているが、教員個人の判断では難しい場合もある。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	講義一演習、大人数・少人数といった軸で、科目のグルーピングを行い、新カリ時間割と照合しながら、それに対応する教室群を設定する。科目担当教員からの意見徴収をもとに各教室群で必要な設備を整理し、キャンパス整備委員会等に要望を提出する。
	講堂での講義設備のニーズ、使い勝手について意見を徴収し、学務課および財務課と相談。改善が必要なところについて要望を提出する。
③	科目によっては事前にオンラインでのグループワークを課しておき、対面の機会では内容を絞って効率的効果的にディスカッションを行うなどの工夫が必要。また、現在科目特性や状況に応じて担当教員の個別判断となっているが、グループワークなど学生の発話を伴う講義演習のガイドラインの検討が必要。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ① 語学や自然科学、社会科学の講義において、題材を身近で現代的なトピックで説明したり、音楽やドラマといったエンターテインメントを扱ったりして、学生の興味を引き、主体的な学びを促した例があった。
- ② 対面とオンラインの特性を相補的に活かした反転授業の試みや、動画リンクやデータ配布などによる講義資料の充実、講義内容に合致した独自のオンラインツールの活用など、ハイブリッド講義の良い取り組みが見られた。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

各教員からの授業改善計画からの情報に基づき、

- ① 講義内で取り上げたトピックやその目的、学生の反応、使用したメディアなど取り組み事例を収集し情報共有する。
- ② 反転授業の試みや、講義資料の充実、独自のオンラインツールの使用例などの取り組み事例を収めし情報共有する。